

「GT-R生誕50周年」を起点に生まれる新たなストーリー

再会と誓い



過去最高の規模で開催したGT-R祭り

R's Meeting 2019 イベント速効レポート

秋葉原の魅力を最大限に引き出すための企画

R33 令和リフレッシュ 後編



Panasonic

Panaso

2019 GT-R 50th Anniversary

SEGA World Drivers Championship

ADVAN

SSAN

STP

wood
STP
SSAN
PUMP

TAISAN

SSAN

STP

AN

REX

POTEN

Panasonic

「グループA」に抱く永遠の憧憬
時を超え、奇跡の共演が実現

土屋圭市

STP TAISAN GT-R

「俺の人生を変えた一台」

少年時代、高橋国光が駆るハコスカGT-Rの走りに心を奪われたという土屋圭市。
時は流れ、'92年には憧れの「国さん」とコンビを組みR32GT-RでグループAに参戦。
「レーシングドライバーとしての俺は、確実にあのレースで変わったよね」と土屋は語る。
「STP TAISAN GT-R」のステアリングを久々に握り、その胸に去来したものとは



GT-R生誕半世紀を祝う 過去最大規模のR's祭り

GT-R生誕50周年、加えてR32の30周年とR34の20周年も重なった今年の「R's Meeting」。
出展小間数／来場者数ともに記録を更新し、マイルストーンに相応しい過去最高の盛り上がりを見せた！

文：野田航也（本誌） 写真：大西 靖／木村博道／小林 健（本誌）／増田貴広（本誌）





ステージイベントも
終日大賑わい！



歴代開発者が揃い踏みのR'sトークショー



22～29ページにもご登場いただいた4名によるR'sトーク。
各人の思い出話はもとより、「この先のGT-R」に話が及ぶと、
詰めかけた聴衆たちの目の色が一瞬にして変わった！



歴代GT-Rを手掛けた開発責任者が一堂に集うのも、R's Meetingではお約束の光景となっている。今年は生誕50周年ということで、ステージではR32／R33／R34／R35のキーマン4名によるスペシャルトークショーを開催。初代ハコスカから現在のR35に通じるRの魂について持論を披露していただいた

笑いっぱなしのスペシャルトーク炸裂

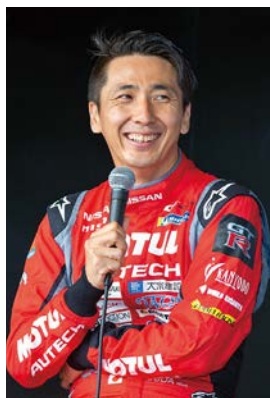


スカイラインとGT-Rをこよなく愛するお笑い芸人の寛平師匠と浜本さん。寛平師匠のドラテク指南役であり、まるで兄弟のように似ていると話題のモータージャーナリスト桂伸一氏と日産自動車の田村宏志氏にも加わっていただき、会場を大いに沸かせてもらった



昨年に続き、関西お笑い界から間 寛平師匠とテンダラーの浜本広晃さんをお迎えしてトークショーを展開。GT-Rの真面目な話から即興コント(?)に至るまで、バラエティに富んだ40分間の異色ステージに。昨年はタジタジだったMCのオギ姉も事前に研究してきたのか、見事にトークを仕切っていた！

GT-Rに縁の深いドライバートークショー



松田選手が3年ぶりに登場。本誌連載でもお馴染みの木下氏は自宅から発掘したという日産ワークスの証である懐かしのスーツを着用して登壇するというサプライズ演出も！当日、久々にタイサン号のステリングを握った土屋氏もグループA当時の逸話などを披露



今年はドライバーによるステージも実施。現役の日産NISMOワークスドライバー・松田次生選手、元NISMO契約ドライバーにして、ニル24hレースでは日本人最多出場回数を誇る木下隆之氏、そしてドリキンこと土屋圭市氏の3名が登場。MCは本イベント初登場となるマナPこと鈴木 学氏が務めた



最新の“Rを楽しむ術”が会場に溢れている

デモカー展示と共に増える 各ブースの多彩なイベント

暑過ぎず、寒過ぎず。「R'sミーツインク2019」当日は、イベントとしては最高の天候となった。今回は異例の土曜日開催となったが、それでもメイン会場となる富士スピードウェイのイベント広場は人、人。ありがたい話である。

その人だかりをじっくり観察していると、来場者が集中する場所は時間を追うごとに変わる。一体何があののだろうか？ よくよく調べてみれば、それぞれのブースで独自のイベントが行われているのだ。

ブース出展というデモカーやパーツの展示がベーシックだ。しかし、



上からRB26DETTを見ることはあっても、全体を眺める機会はありません。こうしたエンジン単体の展示などもオーナーにとっては勉強になり心が躍るものだ



フロント部分の解体と再組み付けの実演を行ったカナザワボディリーペア。デモカーを見せるだけではなく、こうした実演はユーザーにとってもわかりやすいのだ



ストリートカーだけでなく、本物のレーシングカーが持ち込まれることも増えてきた。GT-Rファンだけでなく、日産レース好きも楽しめるイベントになった



メインステージを左右から挟むようにSTP TAISAN GT-R、S54、R35 50th Anniversary、R35 NISMOを特別展示した。こちらも好評でうれしい限りである

もつと活動内容を知ってほしいと考えるショップやメーカーが、作業の実演やクルマ&パーツではない展示を行う。また、ドライバーや有名人のサイン会やトークショーを独自で開催する。こうした流れは2〜3年前から感じていた。われわれ主催者側が頼んだのではなく、積極的にR'sミーツインクに参加してくださっている。これはとてもありがたいことで、イベントに活気が溢れる。

さらに、R'sミーツインクに合わせGT-R用の新アイテムをお披露目してくれるメーカーやショップが増えていくように感じる。GT-Rユーザー、もしくはファンが多く集まるイベントだけに、当然の話なのかもしれない。こうして、メーカー



豊富なジャンルのメーカー&プロショップが集結!

- CLUB RH9
- TUNING PROSHOP GROUP
- フェニックスパワー
- TOP SECRET
- SCREEN
- TMワークス
- アートテック花塚
- ENDLESS
- カーメイキング レヴュー
- SABULIVE
- JUNオートメカニック
- ビットロードM
- ウィング・タケオ
- ガレージ伊藤
- 佐藤商会
- ツーシステム
- t-get
- デュック福井
- イーネクト
- AUTO SELECT
- ガレージヨシダ
- CRAFT SPORTS
- GLOBAL AUTO
- TRUST
- NISMO大森ファクトリー
- Reverse
- リバティウォーク
- Abflug
- IGNITION PROJECTS
- エイチ・ビー・アイ
- STF & MANABOON
- エッチ・ケー・エス
- ATTKD・オーテック
- MCR
- エンケイ with RGF
- エントレスアドバンス
- OZ RACING
- オーディオファクトリー サウンドプロ
- Auto Works K2
- オオクボファクトリー
- 小倉クラッチ
- カナザワボディリペア
- ガレージアクティブ
- ガレージマック
- Kansai SERVICE
- 日下エンジニアリング
- KUHLE-RACING JAPAN
- Kn's ファクトリー
- GTROC・R35GTRclub・クロスオーバー
- スカイラインスポーツクラブ東京
- スピードマスター
- ダイヤモンドエンジニアリング
- TOMEI POWERED
- Do-Luck Racing
- ナカレーシングデザイン
- ナプレック
- 日産プリンス東京モータースポーツ室
- 日本自動車用品・部品アフターマーケット振興会
- ネコ・コーポレーション
- VARIS
- ビーバックスつくば
- BBSジャパン

- FUJITSUBO
- BLITZ
- BRIDE
- フルカラー名刺工房 日産名刺コレクション
- VLENE
- プロジェクトミュー
- プロストックレーシング
- Mine's
- 緑整備センター
- 目黒メンテナンスサービス
- MOTUL/テクニール・ジャボンK.K.
- Moty's
- 横浜ゴム
- Rush Factory
- ラッシュモータースポーツ
- Rio
- レーシングサービスタカギ
- レイズ
- REWITEC®
- ロッキーオート
- ロブソンレーザ
- ワイズスクウェア
- ワキプリントピア
- (掲載順)
- ◎企画展示
- 日産自動車
- 京商
- 富士スピードウェイ
- GT-R Magazine

ーやプロショップと、ユーザーが直接触れ合い、GT-Rの新しい流れを作り出す場として、R'sミーティングを活用していただくのは大歓迎であるし、感謝しかない。

R35が誕生してからすでに10年以上が経過した。第2世代は純正パーツの製法が続くなど、暗いニュースも多い。しかし、少なくともR'sミーティングの出展社には「GT-Rを諦めない。これからも大切に乗り続けるために、われわれに何ができるか?」という気概を感じる。だからこそ、ここで発表される新アイテムたちは、ユーザーの欲するもので

あり、そこから新しい道が開けているのだと思う。

北海道から九州まで、そして海外から訪れる来場者も増えた。R'sミーティングは大きくなれば良いというものではないと思う。あくまでも日頃は閑居で触れ合うことのできないR好き同士の交流の場。規模の大小に関係なく、すべての人たちが笑顔で帰路につけるようなイベントになるよう、日々改善していかなければと思う。それは本誌だけでできることではないかもしれない。皆さま、来年もぜひご協力いただきますよう、よろしくお願いたします!



趣味嗜好の異なるさまざまなユーザーに満足してもらいたい。そのための引き出しの多さを理解してもらえるように、セットアップするパーツを変えてキャラクターの違うR35を用意した。ストリートからサーキットまで納得のいく仕様を作る



BBS RI-DとエンドレスのMONO6キャリパーキットを組み合わせた別の提案。ローターのスリットも特徴的だ



RAYS VOLK RACING TE37トラックエディション2の奥にはAPロッキードのキャリパーを装着するR35も用意



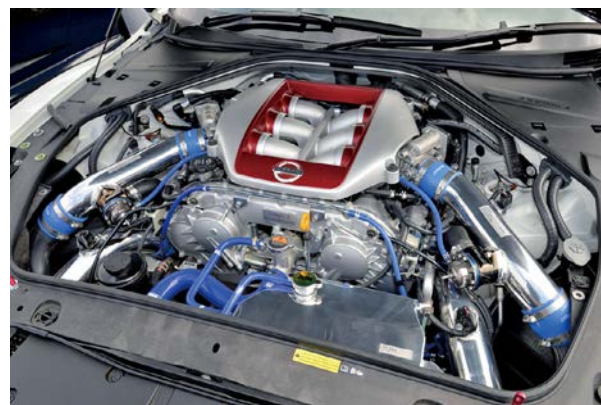
700Rターボを搭載したR35はスタイリングもやり過ぎることがなく、とても精悍で躍動感をみながらしている

フェニックスパワー

福井店 ☎0776-67-2980 京都店 ☎0774-48-1157 <http://www.phoenixs.co.jp/phoenixs/>

飽きのこないクルマ作りを徹底する

数多くのパーツの中から価値あるアイテムを厳選してユーザーに提供するフェニックスパワー。横山耕治代表が自ら吟味して納得したものだけを持っている。ユーザーの要望を臨機応変に対応してくれることも魅力のひとつ。いつまでも飽きのこないクルマ作りを徹底している。今回は5台のR35を展示した。エンジン内部はノーマルでブリッツの700Rタービンキットのボン付けのみでパワフルに仕立てたストリート仕様をメインに、エンジン内部もガッツリと手を入れた1,000psオーバーの400km/h超えを狙うモンスターマシンなど、魅惑のクルマばかりを揃えている



ノーマルエンジンに700Rターボを装着して800psをマーク。ベースのポテンシャルが高いので、手軽なアプローチでも十分すぎるパフォーマンスが得られるのだ



エンジンチューニングばかりでなく、エアロアイテムの充実やレストアの技術力もアピールしたトップシークレット。一般的なメンテナンスからフルチューンまで分け隔てなく対応してくれる。頼ってくれる人は拒まない姿勢がファンを魅了する



BNR32のエアコン吹出口周辺に発生しがちなボードの浮き対策。カーボン製ダッシュパネルが当日発売となった



ボリュームのあるR35のリアパートにも、バランスよくマッチするGTウイングのハイマウントバージョンも人気



街中で違和感なく溶け込めるようにローポジションにマウントするGTウイングのストリートバージョンに注目！

TOP SECRET

☎043-216-8808 <http://topsecret-jpn.com>

フルノーマルから過激チューンまで揃う

夢のあるクルマ作りで定評のあるトップシークレット。ユーザーの無理難題にも柔軟に応じてくれる懐の深さが最大の魅力と言える。その実力は国内のみならず、海外にも知れ渡るほどだ。「普段使いには快適なR35、趣味で乗るならR32、最近ではR33の扱いやすさを再認識しました」と永田和彦代表。そんな考えを反映させた車両を展示した。R33とR35はパンチのあるエンジンチューンはもちろん、スタイリッシュなエアロアイテムも導入。一方、R32はエンジンはもちろんホイールまでフルノーマルで攻める。バリエーションが豊富で来場者を楽しませてくれていた



チューニングで培った高い技術力を惜しみなく投入したフルノーマルのリフレッシュ仕様。スタンダードなR32の魅力を余すことなく引き出すメニューになっている

ENDLESS

☎078・969・2555 <http://www.endless-r.co.jp>



パフォーマンスだけでなく、ルックスにもこだわって見ても走っても楽しめるクルマ作りがエンドレスのポリシーだ。万が一トラブルが発生したら徹底的に原因を追求して対策を講じる。こうして得たノウハウが蓄積されて懐の深いチューニングが可能になった。RB26DETTをやり尽くしたので、最近はR35が多いという。そんな状況を裏付けるかのように2台の展示車両はどちらもR35だ。ガンメタはエンジンがノーマルで、現在4.3ℓ仕様を急ピッチで製作中！

パフォーマンスに合わせた ルックスで魅力に深みを出す



3.8ℓ エンジンにTD06SH 20RXという新ターボを組み合わせて1,000psを発揮



両サイドがカナードで下面まで一体成型のフロントディフューザーはオリジナル

SABULIVE

☎076・482・3751 <http://www.sabulive.jp>



R35チューニングを得意とするサブライブ。高度な電子デバイスを導入しているVR38DETTにも、専用ツールを使い制御系に手を入れて、狙った味付けを実現してくれる。さらに純正コンピュータだけでなくフルコンにも対応可能。展示車両は赤と黒のR35でどちらもエンジンはノーマルのままパワーを引き上げている。ブース内にはサージタンクやピストンなど厳選した海外のパーツをディスプレイ。機能美満点のアイテムに来場者の視線は釘付けになっていた

純正コンピュータだけでなく ハイレベルなフルコンも対応



ブランチが長くポリウムあるサージタンクはマグナス、ピストンはダイヤモンド製



フロントはアブフラッグ製で、サイドリヤはオリジナルを組み合わせている

アートテック花塚

☎0287・62・3218 <http://at-hanatsuka.co.jp>



長年L型で培ってきたノウハウをベースに、時代に合ったチューニングを展開しているアートテック花塚。バランスのいいトータルメイクを心掛けている。ユーザーのリピーター率が高いのも特徴の一つだ。一度訪れると花塚芳美代表の魅力に惹かれて長い付き合いになるという。今回はR35とR34の2台を展示。どちらも素性のよさを崩すことなくグレードアップを図り、乗りやすさを重視。とくにR35は扱いやすさや快適性も気を配った仕上がりとなっている

Rの素性のよさは崩さずに 徹底的に引き伸ばしていく



R34は2.8ℓでVカムも装備。GT2530KAIで600psのサーキット仕様



R35はピストンとコンロッドを強化。GT800タービンで800psをマークする

カーメイキング レヴュー

☎0438・60・3133 <http://www.revyou.co.jp>



特別なチューニングをせず、メンテナンスでもしっかりと面倒を見てくれるというカーメイキングレヴュー。ユーザーの好みに合わせてライトからハードまで、さまざまなメニューを用意して対応。展示車両はホワイトとブルーの2台のR35だ。どちらもバランスよく手を入れたハードなチューニングながら、乗りやすさを重視した味付け。とくにブルーの車両はドライカーボンパーツを各部に使い軽量化も図っている。それでいて無骨過ぎず精悍なスタイルを実現

ハードなチューニングでも 乗りやすさを重視する!



オリジナルのサージタンクやリザーバータンク、オイルキャッチタンクをセット



オーナーが1番気に入っているアングルのリアビュー。機能美が強烈に伝わる



第2世代、R35と共に豊富なステップアップの方法を伝授してくれるNISMO大森ファクトリー。会場では海外からの来場者も多数訪れ、憧れのマシンを間近に見て感動している姿が印象的だった。デモカー4台がズラリと並ぶのはやはり圧巻



LM-GT4に19インチが追加ラインナップされる予定。BCNR33やBNR34に向けたサイズとして注目したい！



第2世代のGT-Rに向け新たにリリースされたタワーバーにも注目だ。純タン製で重量はわずか1.5kg！



BNR34のインタークーラーパイピングやインレットパイプなど、NISMO大森ファクトリーのカーボンパーツも根強い人気

NISMO大森ファクトリー

☎045・505・8508 https://www.nismo.co.jp/omori_factory

最新ホイールと王道GT-Rチューンを披露！

日産ワークスとしてモータースポーツ活動を行い、数々のチューニングパーツを世に送り出すNISMO。そのショップ部門、NISMO大森ファクトリーは今回の目玉としてBBSと共同開発した「RI-A Engineered by NISMO ダイヤカットモデル」を持ち込んだ。軽さと強靱さのバランスを極限まで追求した鍛造1ピース。昨年は発表後瞬く間に完売となったモデルで、今回はリム部にダイヤカットを施しているのがポイント。車両はR32/R33/R34/R35のデモカーCRSを持ち込んでおり、その正統派な佇まいに来場者は感嘆と共に、愛車のステップアップのヒントを得ていた



サイズはフロントが10J×20で、リアが10.5J×20という設定だ。落ち着いたブラックのフェイスに、ダイヤカットとマシニング加工によるNISMOロゴがよく映える



リバースと言うとサーキット派の強い味方というイメージが強いが、もちろんストリート仕様やメンテナンスなどにも幅広く対応。GT-Rのことなら第2世代もR35も造詣が深く、なおかつサーキットでの限界を知っているというのが心強いショップ



手軽にドレスアップが楽しめるカーボンモールシール。R32用とR34用が用意されており2,800〜3,000円だ



専用の分度器を使わずにバルブタイミングの計測が可能。セッティングの手間を大幅に簡略化する優れたアイテム



イベントのお土産に大人気のTシャツも新作が登場していた。前後にラメ入りのロゴがプリントされているのだ

Reverse

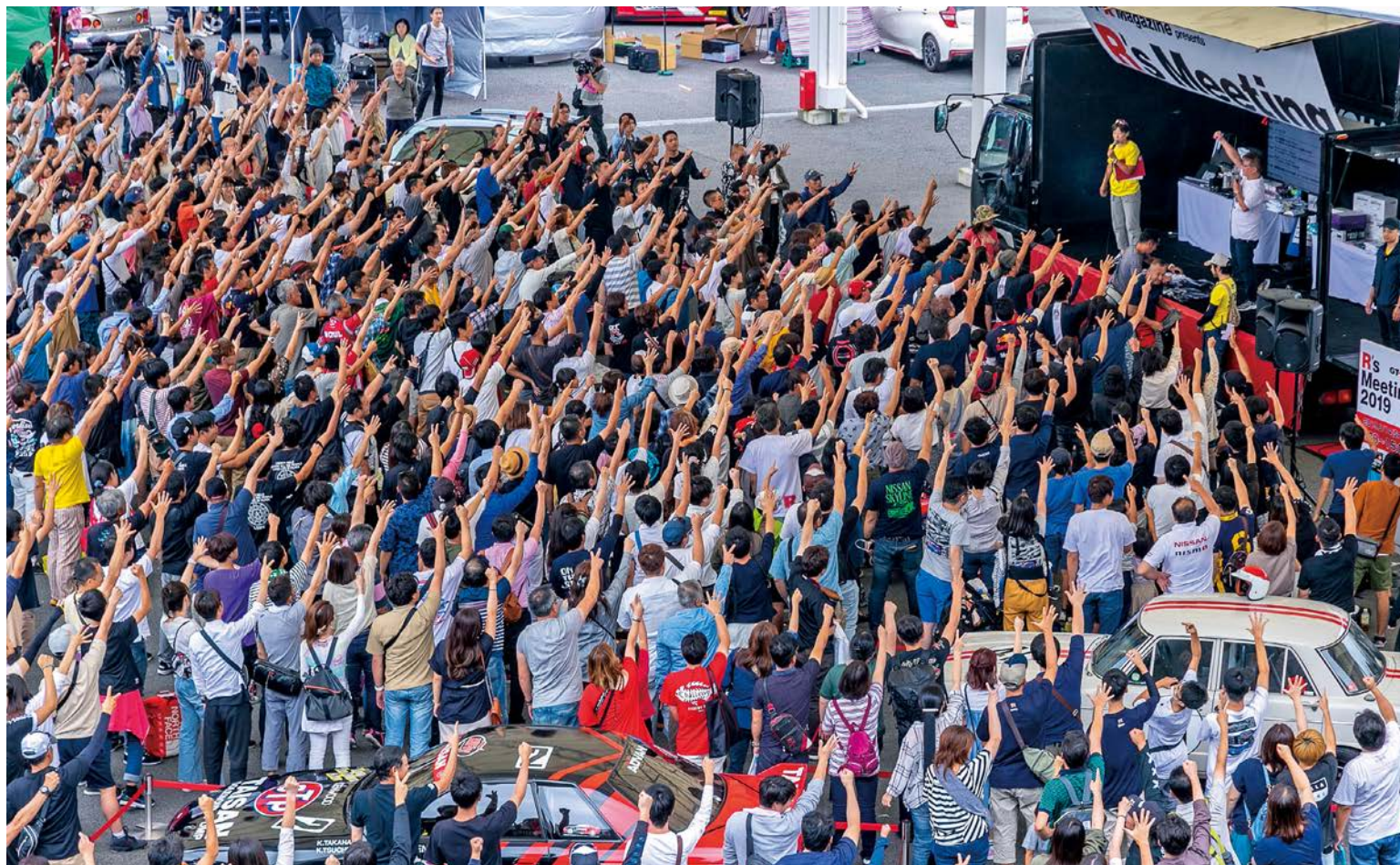
☎0285・82・4870 <http://www.reverse-seed.com/>

オリジナルパーツも豊富に走りを応援！

ツインリンクもてぎに近い地の利を生かして、GT-Rによるサーキット走行をバックアップするリバース。オリジナルブランドSeedへ新たに加わったのは、排気抵抗を減らすためタービンを前方にオフセットした、RB26DETT用の等長エキゾーストマニホールドだ。性能だけでなく見た目も素晴らしい。さらにクランクプーリーに装着し、バルタイを計測・調整するためのゲージもR's Meetingが初お披露目の場となった。こちらは速さに直結するアイテムではないものの、プライベーターやプロショップにとっては目からウロコのアイディア商品。大いに注目を集めていた



展示されていたエキマニにはHKSのGTⅢタービンを装着。その位置が若干フロント寄りになっている。まだ完成したばかりで正式名称や価格は近日中に発表の予定



ORC メタルツインクラッチ



ORCメタルクラッチはハイパワーに対応しつつ、マイルドなベダルフィールと半クラの使いやすさ、レスポンスのよさが支持される



HKS GTⅢ-2530タービンキット



HKSの最新タービンであるGTⅢ-2530のRB26DET用キット。本体や補器類の強化が必要だが550～600psを出せる注目のアイテムだ



じゃんけん大会

恒例のお宝ゲットチャンス! 参加者もグッズも過去最高に

豪華賞品やレアアイテムの熾烈な争奪戦も楽しめる!

イベントも終盤に差し掛かると、いよいよ恒例のじゃんけん大会タイムとなる。毎年多数のメーカー&ショップに協賛いただき、来場者は素敵なお土産をゲットできるのだ。

今年も豪華なモニター賞品から絶版&非売品のレアグッズまで、数え切れないほどのアイテムを用意できた。そして始まる本気の戦いである。舞台上からMCのオギ姉が仕切り、本誌編集長の野田とじゃんけん対決。時間が経つほどにボルテージも上がる。4点あったモニター賞品を勝ち取った人も笑顔。こちらは後日、きっちりレポートしていただきます。

日下エンジニアリング 1/6エンジンモデル フルオーダーカスタム



今にも動きそうな精巧さがウリの日下エンジニアリング1/6エンジンモデル。じゃんけん勝者の愛車同様にフルオーダーでカスタム



HPIワイドインタークーラー



HPIのワイドインタークーラーは純正バンパーを無加工で装着できる最大サイズ700mm。オフセットフィンで冷却性能を重視したのが特徴だ



協賛各社

エイチ・ピー・アイ/エッチ・ケー・エス/小倉クラッチ/日下エンジニアリング/エンケイ/エンドレスアドバンス/OZ RACING/京商/スピードマスター/MOTUL/テクノイル・ジャポンK.K./TOMEI POWERED/TRUST/NISMO/日産自動車/BBSジャパン/FUJITSUBO/BLITZ/BRIDE/プロジェクトムー/横浜ゴム/レイズ/REWITEC®/ロブソンレーザ/ワキプリントピア